

都内避難者の皆様への

定期便

2017

9月号

NO.140

都内に避難されている皆様へ、
東京都からのお知らせ等の情報を送ります。

ふるさとに戻ったママさん座談会 【後編】 (P1~3)

8月号に引き続き、県外への避難から福島県内に戻ってきたママさんに、避難生活と戻ってきてからの生活について語っていただいた座談会の様子をお伝えします。

ふるさとからのお知らせ (P4)

ふるさとの今をお知らせします。今月は宮城県からです。

現地の応援団より (P5)

東北で働く応援団をご紹介します。今月は、岩手県に派遣されている職員からです。

司法書士による面談・電話相談のご案内 (P6)

東京司法書士会が実施する法律相談のご案内です。

東京しごとセンター (P7~8)

東京都が実施する就労相談などのご案内です。

「都内避難者相談拠点」のご案内 (P9~10)

東京都が実施する都内に避難されている方向けの総合相談窓口のご案内です。

次号の発送は、10月2日を予定しています。

ふるさとに戻ったママさん座談会

in 福島県郡山市【後編】

8月号に引き続き、県外への避難から福島県内に戻ってきたママさんに避難生活と戻ってきてからの生活について語っていただきました座談会の様子をお伝えします。

日時 平成29年6月8日
会場 郡山市中央公民館



(参加者…県外避難先) ※順不同

Aさん…兵庫県 Bさん…宮城県 Cさん…兵庫県
Dさん…東京都 Eさん…北海道 Fさん…山形県
ファシリテーター…富田さん (ビーンズふくしま)

●主なトピック

- 避難を決めたきっかけ、場所選びについて
- 避難先での様子について
- 帰還したきっかけ、帰還すると決めた時のことについて
- 時間の経過による変化、戻ってきてからの思いなどについて
- 今も避難をしている方へのメッセージ

【時間の経過とともに変わったこと、戻ってきてからの思いなどについて】

富田さん：みなさんが、迷いながら、不安を抱えながら戻ってきた様子を聞かせていただきましたが、福島に戻ってきてから生活を取り戻してきたきっかけや、こういうことがよかった、こういうことがまだまだ落ち着いていないなど、自分の気持ちの変化などがあれば話してください。

Cさん：福島に帰ってきて、「ママカフェ」という集まりがあることをEさんから聞いて参加しましたが、自分と似ている状況の人と話せる場所があることに感動しました。「ママカフェ」で出会った4人で、「はみんぐbird」というサークルを結成、遠慮せずに話をできる人と出会い、同じ状況の人と話ができることがこんなにも救われるんだと思いました。不安は消えないけど、お母さんが元気であることは家族にも影響を与えるし、いかに楽しく生活するかが大事だと思うようになりました。その原点となる場所に出会えることができました。



Dさん：私はペップキッズで「ママカフェ」のチラシを見て、ここが私の居場所だと思って参加し、同じ気持ちのお母さんに出会って、救われた思いがしました。初めて「ママカフェ」に参加した時、富田さんに「福島の好きなところを話してみましよう」と言われて、その久々の視点に驚いたことを覚えています。皆で話をすると、福島の好きなところがたくさん出てきましたよね。

富田さん：私もよく覚えています。あの時、アイスブレイクとして選んだ話題は、カケだったんです。でも、みんな話を始めると、ホワイトボードいっぱい好きなことがたくさん出て、逆にびっくりしました。

Eさん：自分も『人』が大事だと思います。帰ってきて、誰に話をすればいいという孤独を感じ、除染や行政や学校などへの疑問があると、みんなが敵に思えた時もありましたが、「ママカフェ」がクッションになってくれました。価値観や選択がみんなバラバラの状況の中で、建前でなく本音で話ができる環境や思いを共有できたことが強い。それが自分を支えていると思います。

富田さん：自分は何を大事にしたいか、震災からよく考えてきた気がします。家族とも色々なことについて話をすることができました。

Bさん：私は福島に戻った時、自分のように避難して戻った人が周りにいませんでした。福島に戻ったことが子供のためになっていないのではないかと不安がありましたが、家族で過ごせるようになったことはよかったです。「ままカフェ」に参加してから、ずっと自分は一人で頑張ってきたこと、つらかったことや我慢してきたことを押し殺していたことに初めて気が付いたことで、今をようやく楽しめるようになり、戻ってきてよかったと思っています。今でも、そのつらかった時に気持ちが戻ることもあります。



Eさん：避難していたことがなかったことにならないよう、気持ちが戻ってもいいと思う。不安に思うことは大事なことだと思う。不安なことを話せる場が大事ですよね。

【今も避難をしている方へのメッセージ】

富田さん：みなさんは地元に戻ってきてからしばらく時間がたっていますが、今も避難を続けている方は地元とのつながりが薄くなっている方もいらっしゃると思います。特に東京は地域でのつながりが薄く、埋もれてしまっている感じの人も多く感じています。定期便を見ている方は、福島へすぐには戻りたいと思っていない方でも、福島への思いもあるのではないかなと思います。避難生活の頃を思い出して、福島へ戻りたいと思っている方に何か伝えたいことがあれば話をしてもらえませんか。

Cさん：簡単には言えないところがあります。私は避難生活が2年でも大変だった。子供の成長も早いので、2年という時間はすごく大きな時間でした。6年という時間は想像もつかないです。福島に戻ったお母さんにどんなことを聞きたいかも想像がつかないです。ピンポイントで質問してもらえれば、伝えたいことはたくさんありますが、漠然とどうですかと聞かれると何とも言えないですね。



Fさん：6年間生活をしているということは、生活のベースは東京、福島はたまに帰省する場所のような感覚になっているのかもしれないですね。私は、迷いながら避難をしていた2年半だったので、福島が常に自分の中にありました。今も避難をされている方には、自分の大事にしているものを、大事にしてほしいということくらいしか言えないかな。

Cさん：想像ですが、東京は便利だし、帰らないといけな理由がないのかな。もし、理由ができたときは、かなり悩むでしょうね。帰るかどうかは、家族でちゃんと話を決めて決めるしかないんだろうなと思います。

富田さん：交流会などへの誘いがあっても行かないという人もいます。避難生活が長引き、時間が経つにつれ、参加しづらくなっているのかもしれない。避難者数も減って帰還してきている人もいます。なのに、「ままカフェ」に参加する方が少なくなってきた。福島に戻ってきたときに「ままカフェ」のような色んな環境があることを伝えて、敷居をさげておき、帰った時に参加しやすくしておきたいと思っています。

Eさん：「はみんぐbird」のブログで、楽しいことだけでなく、偏らないよう情報発信をするよう心掛けています。避難していた時の話もできる場を求めて参加してくれる人もいるかもしれないので、東京都の定期便の取材を受けたことを紹介しようと思います。逆に避難者と言われるのが嫌だ、自立したい、ほっといてほしいという人もいて、定期便も見たくないという人もいます。そういう人にも、こちらはオープンにしておいて、困った時などに、自然に参加してもらえるといいなと思っています。

富田さん：以前、Eさんが、私たちの状態を『ちんあなご』に例えていたのがすごく分かりやすいと思いました。

Eさん：『不安が出たり入ったり、つかず離れずの距離を保ちながら、柔らかくゆらゆら揺られていられるから、心がぼきっと折れることもない』という感じが、私たちの感じに合うなと思ったんです。

富田さん：一緒に揺られていられる場所があるんだよというのが、ピッタリと合うんですね。

【最後に】

富田さん：それでは最後に本日のことを振り返って思ったことなどを一言お願いします。

Bさん：「みんなのひとしずく」の冊子（※福島県から避難された方には定期便6月号に同封しました）を読んでも、色んな考えがあるんだなと思いました。自分は戻ってきてよかったと思えた事がよかった。考え方はそれぞれなので、自分を信じるしかない。家族が離れて生活している方は、夫婦バラバラにならないよう、同じ方向を向いてほしいなと思います。

Cさん：今日は避難した時のことを久々に話して、あの時大変な思いで避難したことなど思い出しました。私も帰ってきてよかったと思うことの方が多いです。いろんな選択肢があって、自分が納得して、旦那さんとしっかり話をするしかない。色々でいいと思います。

Eさん：大事な話をする場所がいつでもここにあって、現在改めてそういうことを自覚したので貴重な機会でした。

Dさん：避難中に見ていた定期便を実際に作っている方に会うことがあるとは思えない感覚ですが、そういう時を経て自分がここにいるんだなと改めて感じました。時間が過ぎているから、自分が戻ってきた時と状況が変わってきていて、楽しんでいられるかもしれないし、つらいかもしれないし想像のつかない思いを抱えているかもしれませんが、今も多くの方が避難していると聞くと、中にはつらい思いをしている人もいますんだと察せられます。自分は定期便のイベントなどに手を付けられなかったけど、うまく伝え続けてください。

Fさん：みんなの色んな話をきけたのがよかったなと思います。自分の話はできますが、今避難している人たちに向けて想像して話すということは、今までしていなかったんだと思いました。今避難している人もいるし、この先帰ってこようと思って悩んでいる人もいるということは忘れてはいけないし、色んな思いを抱えて生活している人がいるんだろうなと今日改めて思うことができました。みんなの家のスタッフとしても考えなくてははいけないし、人としても忘れてはいけないなと思いました。

「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」について

1999年に不登校の子どもたちの居場所としてのフリースクールからスタートしました。引きこもり、貧困、震災による避難などの状況にいる子ども 若者が孤立せず自分らしく生きられる社会を創るため、フリースクールやこころの相談室、学習・就労支援、仲間づくり、親の会などの活動を続けています。震災後は、仮設住宅で暮らす子ども達の支援や、原発事故の影響で避難生活を続けている親子の支援などにも取り組んでいます。

「みんなの家@ふくしま」「復興交流拠点みんなの家 セカンド」について

2015年3月から福島の親子・若者・地域の大人が集える多世代のコミュニティハウス「みんなの家@ふくしま」をスタートさせ、2017年1月からは、避難してきた・避難先から戻って来た人々と福島の住民との繋がりや交流を目的とした「復興交流拠点みんなの家 セカンド」をオープンしました。また、同年4月から福島市の委託を受けて「子育て支援センターみんなの家@ふくしま」となり、たくさんの親子が訪れています。

○連絡先 「みんなの家@ふくしま」 福島県福島市笹谷字清水14-12 ☎ 024-572-4690
「復興交流拠点みんなの家セカンド」 福島市笹屋字道場24-9 ☎ 024-573-7072

○URL <http://f-minnanoie.jimdo.com>

●記事全体についてのお問い合わせ先

東京都総務局都内避難者支援課 ☎ 03-5388-2384

ふるさとからのお知らせ

今月は宮城県の復興状況についてお伝えします。

■ 土地区画整理事業

工事着工 : 33地区 (H29/5未現在)

住宅等建築工事可能(使用収益開始)地区 : 24地区 (H29/5未現在)

計画地区数 : 34地区 (H29/5未現在)

都市計画決定・事業認可は全地区でなされている。

着手約97% (住宅等建築工事
可能地区約71%)

進捗率 50% 100%

■ 保育所 (へき地保育所含む)

再開した施設数 : 131施設 (H29/5/1現在)

被災施設数 : 135施設 (参考) 震災前施設総数 : 374施設

約97%

今後の復旧見込み
H29以降 4施設

復旧率 50% 100%

■ 高齢者福祉施設 (入所施設)

再開した施設数 : 197施設 (H29/5/1現在)

被災施設数 : 198施設 (参考) 震災前施設総数 : 463施設

約99%

今後の復旧見込み
H28以降 1施設

復旧率 50% 100%

■ 障害者福祉施設

再開した施設数 : 137施設 (H29/5/1現在)

被災施設数 : 138施設 (参考) 震災前施設総数 : 670施設

約99%

今後の復旧見込み
H28以降 1施設

復旧率 50% 100%



今春オープンした歌津地区商店街『南三陸ハマレ歌津』



かさ上げ工事が進む南三陸町



整備進む商港岸壁の防波堤 (気仙沼市)



名取市高柳地区に完成した災害公営住宅

● お問合せ先

宮城県震災復興・企画部震災復興推進課 ☎ 022-211-2408

現地の応援団より

東北で働く応援団をご紹介します。

今月は岩手県に派遣されている職員からです。

【自己紹介】

私は、4月から岩手県商工労働観光部 雇用対策・労働室で、事業復興型雇用助成金の支給に係る業務を行っています。具体的には、被災した沿岸12市町村に所在する中小事業者が失業者の雇用や住宅支援等を行った場合に、助成金を支給するというものです。

【復興の状況】

県庁のある盛岡市内では復興を意識することは、業務を除けばほとんどありません。しかし沿岸部へ行くと、至る所で工事が行われており、着実に復興が進んでいることを感じます。

ニュース等でも復興の状況は逐次報じられていますが、私自身が目にしたものでは、JR大船渡駅前にオープンした商業エリアの「キャッセン大船渡」、釜石市鵜住居町に建設中の鵜住居川水門、同市片岸町で復旧工事中の片岸海岸防潮堤などがあります。また、鵜住居町にはラグビーワールドカップ2019に向けた「釜石鵜住居復興スタジアム」が平成30年9月の完成を目指し建設中です。また、大槌町も、土地区画整理事業などによる宅地造成が進み全体の約70%の整備が完了し、住宅などが建ち始め、県立大槌病院や小中一貫校である大槌学園などの公共施設も完成しました。

また、台風10号の豪雨による浸水被害のため、7か月にわたって封鎖されていた岩泉町の龍泉洞も再開されて観光客で大いに賑わっていました。岩手の復興が着実に前進していることを感じ、私も微力ながら貢献できれば幸いです。



釜石市片岸海岸防潮堤



キャッセン大船渡
東京ではお目にかかれない海の幸が楽しめる。



龍泉洞
ドラゴンブルーといわれる。



盛岡の夏といえば「さんさ踊り」
私も太鼓隊として参加しました

岩手県商工労働観光部 袴田 佑矢



しほたん通信

平成29年9月号

東京司法書士会では都内で避難生活を送られている被災者や避難者の方へ支援活動を行っております。みなさまへ寄り添い、少しでもお力になれますよう、情報提供や法律相談等の支援を続けてまいります。9月号では、相続が発生した場合に利用できる新しい制度について、わかりやすくご紹介いたします。

「法定相続情報証明制度」とは相続人を証明する新しい制度です

銀行や郵便局などへ相続の手続きをする場合、これまで複数の戸籍謄本を提出しなければなりませんでしたが、この度、1枚の書面で済ませることが可能な制度が始まりました。亡くなった方の出生から死亡までの戸籍謄本と相続人の現在の戸籍謄本などをそろえて、相続一覧図（家系図のようなもの）とともに法務局に提出をします。その一覧図が正しい相続関係と判断される場合、「法定相続情報一覧図」として登録され、証明書が交付されます。この証明書は、戸籍謄本の代わりとして、銀行や郵便局の相続手続きに使えます。証明書は無料で交付され、再交付も可能です。

この交付手続きは相続人のほか司法書士も代理して行うことができます。多様な財産の手続きとともに、ご相談いただけます。

面談による相談（予約制）

- 東京司法書士会総合相談センター（四谷・月曜～金曜 午後5時～8時
火曜・土曜 午後1時～4時）

*火曜日午後の相談は9月19日から開始いたします。

ご予約電話番号：03-3353-9205

予約受付時間：平日午前9時～12時、午後1時～5時

場所：東京都新宿区本塩町9-3（JR・東京メトロ 四ツ谷駅 徒歩約4分）

（9月19日より、東京都新宿区四谷本塩町4-37となります。）

- 三多摩総合相談センター（立川・水曜 午後5時～8時 木・土曜 午後1時～4時）

ご予約電話番号：042-548-3933

予約受付時間：平日午前10時～午後4時

場所：東京都立川市曙町2-34-13 オリンピック第3ビル 202-A



電話による相談

電話番号：03-3353-2700

相談時間：平日午前10時～午後3時45分 ※通話料はご相談者様の自己負担となります。